

多摩府中地域での OASCIS を活用した抗菌薬適正使用に関する
地域連携の樹立とモデル化

研究分担者 氏名

堀越 裕歩 東京都立小児総合医療センター 感染症科・免疫科

研究協力者 氏名

大坪 勇人 東京都立小児総合医療センター 感染症科・免疫科

磯部 裕介 東京都立小児総合医療センター 感染症科・免疫科

研究要旨

昨今の薬剤耐性菌の蔓延対策として、地域における抗菌薬適正使用の推進が求められている。本分担研究は、多摩府中地域における「診療所における抗菌薬適正使用支援システム：OASCIS」を用いた抗菌薬適正使用に関する地域連携を行うこと、及びその地域連携をモデル化して全国に普及することである。2023 年度は 8 診療所が当地域連携に加入し、定期的な OASCIS を活用した地域連携カンファレンスを開始した。OASCIS は参加診療所の抗菌薬処方動向を簡便に確認できるシステムだった。2024 年度は 7 診療所が当地域連携に新たに加入しながら地域連携カンファレンスを継続し、更に全国普及としてオンライン媒体での情報提供発信を開始した。2025 年度はモデル化した内容の発信を行っていききたい。

A. 研究目的

地域毎に感染症の流行状況は異なっているため、地域毎の抗菌薬適正使用が求められている。抗菌薬適正使用の推進のために、地域での抗菌薬の処方動向を把握する必要がある。AMR 臨床リファレンスセンターが主体となった診療所版 J-SIPHE「OASCIS (Online monitoring system for antimicrobial stewardship at clinics：診療所における抗菌薬適正使用支援システム)」は、登録している診療所の処方情報を簡便に収集できるため、地域の抗菌薬処方動向の把握への活用が期待されている。我々の目的は、一つは多摩府中地域における OASCIS を用いた抗菌

薬に関する地域連携を行うこと、二つ目に OASCIS を活用した地域連携を一般化及びモデル化して全国に普及することである。

B. 研究方法

府中多摩地域における診療所に OASCIS 登録と、OASCIS 内の当院のグループへの参加を促した。参加診療所が増えたところで、地域連携カンファレンスの定期開催を開始した。府中多摩地域での手法をモデル化して、他地域への普及を開始した。

C. 研究結果

2023 年 3 月から 5 月にかけて、府中市医

師会と共同で活動していくことが決定した。6月に、府中市医師会でOASCIS及びそれを活用した地域連携の宣伝を行い、1診療所がOASCISを活用した当地域連携に加入した。11月に、府中市医師会共催でAMRに関する講演会(図1)を行い、1診療所が加入した。12月から府中市医師会の診療所への個別訪問を開始し、2診療所が加入した。2024年1月に、府中市医師会報への宣伝の寄稿(図2)を行った。2月に、第30回多摩小児感染・免疫研究会終了後、府中市のOASCISの取り組みに関する口演(図3)を行った。同月内で、既存の病院間連携カンファレンスに合併する形で、第1回地域連携カンファレンスを開始した。

2024年度の府中多摩地域での活動として、地域での活動普及を継続し、計7診療所が当地域連携に加入した。2025年1月に多摩府中地域の診療所を対象としたAMR講演会を昨年度に引き続き行った。2月に当地域連携のOASCISデータを用いてマイコプラズマ流行期におけるAWaRe分類の限界に関する発表を多摩小児感染・免疫研究会で行った。3月に府中市医師会での薬剤耐性対策に関する講演会と当地域連携活動の説明を行った。

2024年度のOASCISを活用した抗菌薬適正使用に関する地域連携の全国普及として、9月に外来小児科学会学術集会で当地域連携の活動概要の発表、10月に我々の活動を一般化した内容をKANSEN Journalへ発表した(図4)。2025年3月には町田市での学術講演会を担い、町田市医師会内既存の感染対策会議にOASCIS導入を行うための情報提供を行った。上記活動を経て、本活動のモデルの基盤が完成した(図5)。

2024年度は薬剤耐性対策の脅威である抗菌薬供給制限について、OASCISの小児科全診療所データを用いて調査を行った。

2023年から1年以上続くアモキシシリン含有薬の全国的な供給制限は、第3世代セファロスポリンなどの広域抗菌薬で代替されていることを、7月の環境感染学会学術集会で発表し、その後に論文として報告した。¹

D.考察

2024年度にかけて、計15診療所がOASCIS内当院グループに加入し、2024年度も引き続き定期的な地域連携カンファレンスを継続している。

OASCISのWebページ開設以来、我々は多摩府中地域で精力的に広告活動を行い、OASCISを用いて当院との地域連携を呼び掛け、2診療所の加入があった。複数回の方法や対象を変えた広範な呼び掛けにも関わらず加入診療所は限定的であった。その理由として、聴衆が抗菌薬適正使用、あるいはその加算に関して意欲的ではないか、関心が特にないことが考えられる。加算点数が低いために診療所が意欲的にならない可能性も考えられる。反対に、加入診療所については元々抗菌薬適正使用に興味があり、呼び掛けによりきっかけを提供できたと考えられる。2024年度の診療報酬改定により抗菌薬適正使用体制加算が新設され、病院と診療所における地域連携を行うメリット、及び抗菌薬適正使用を行うメリットが増えた。

府中市医師会員の協力を依頼し、個別に2診療所の訪問を行い、そのいずれもの加入があった。訪問により、登録など技術的な面の直接のサポートを行うことができた。今までの医師会員同士の信頼関係、当院との診療協力関係も含めての加入と考えられる。行える診療所数に限りはあるが、直接の訪問は加入数を増やすための一つの有効な方法と考えられる。

2024 年度は、府中市よりも広域の多摩地域に活動範囲を広げて宣伝を行い、更に 7 診療所が加入した。加入診療所の特徴として、元々薬剤耐性対策、及び外来感染対策向上加算に興味を有しており、そのような診療所への情報提供が OASCIS を用いた地域連携を開始していく上で、より効率的と考えられた。

診療所が OASCIS を活用して抗菌薬処方情報を報告するために必要な UKE ファイル出力方法は、各メーカーが対応し、2024 年にかけてマニュアル化されていた。

OASCIS を用いた地域連携カンファレンスを開催した。参加診療所グループ全体の抗菌薬処方データを OASCIS から簡便に取得できたため、事前のカンファレンス準備におけるデータ取得時間は数十分だった。

今後、抗菌薬適正使用体制加算を望む施設からの依頼が期待できるため、引き続き当院との地域連携を呼び掛けていきたい。また現在の診療所との地域連携を強化し、加算条件の達成を含めた地域での抗菌薬適正使用を普及していきたい。また、抗菌薬供給制限やマイコプラズマ流行による AWaRe 分類評価の見かけ上の不当な評価など、診療所が直面している課題を、本活動を通じて発信していきたい。

OASCIS を活用した地域連携を一般化及びモデル化に関して、2024 年度から本格的に普及を開始し、モデルの基盤を完成させた。オンラインでアクセス可能な KANSEN Journal への寄稿によって全国から問い合わせがある。2025 年度では、更に内容を要約した資料を作成する予定である。町田市での OASCIS 導入に向けた講演会のように、OASCIS を導入試みている定期感染対策カンファレンスを有する地域への個別アプローチを行いたい。

E. 結論

府中多摩地区の診療所と、OASCIS を用いて簡便に情報を収集しながら、地域連携カンファレンスを継続している。すでにモデル化は出来上がっていて、2025 年度はこのモデルを全国へ効率的に普及していきたい。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Otsubo Y, Matsunaga N, Tsukada A, et al. Chronic amoxicillin shortage led to alternative broad spectrum antimicrobial use in pediatric clinics. J Infect Chemother 2024;31:102508.

2. 学会発表

1) 大坪勇人, 松永展明, 塚田愛ら. アモキシシリン不足による小児科診療所での内服抗菌薬の広域化. 第 39 回日本環境感染学会総会学術集会. 2024/7/27, 京都.

2) 大坪勇人, 崎山弘, 磯部裕介ら. OASCIS を活用した多摩府中地域での抗菌薬適正使用に関する連携. 第 33 回日本外来小児科学会年次集会. 2024/9/7, 岐阜.

3) 大坪勇人, 松永展明, 塚田愛ら. アモキシシリン供給不足における小児の需要増大の実態. 第 56 回日本小児感染症学会総会・学術集会. 2024/11/17, 長崎.

4) 大坪勇人, 村田陽, 磯部裕介ら. マイコプラズマ流行による多摩府中地区での内服抗菌薬処方動向の変化. 第 31 回多摩小児感染・免疫研究会 2025/2/1, 東京.

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

- 1) Otsubo Y, Matsunaga N, Tsukada A, et al. Chronic amoxicillin shortage led to alternative broad spectrum antimicrobial use in pediatric clinics. J Infect Chemother 2024;31:102508.

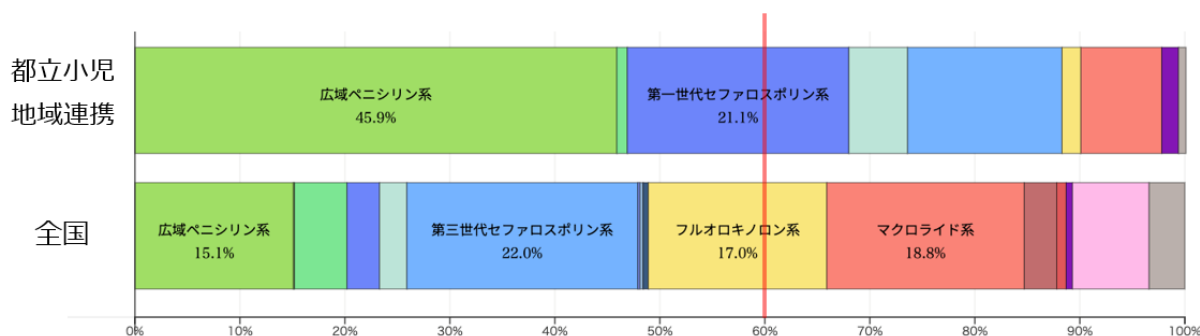
図1 感染症 Web 講演会チラシ

図2 府中医師会報への寄稿文

全ての処方箋の抗菌薬 種類毎の割合



2023年4月～2024年3月

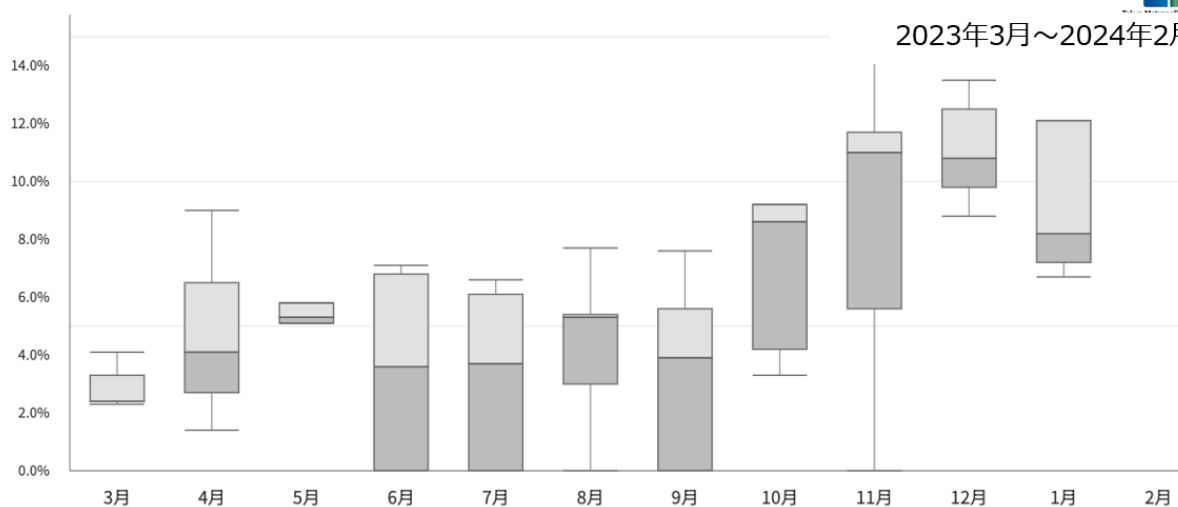


全国と比較して、狭域な抗菌薬が用いられている

当地域連携の全患者の抗菌薬処方率



2023年3月～2024年2月



中央値：2.4～11.0%，最大処方率4～15%程度

図3 OASCIS を用いた地域連携カンファレンスの資料抜粋

OASCISを活用した地域連携と抗菌薬適正使用——多摩・府中モデル

東京都立小児総合医療センター感染症科・免疫科

大坪勇人、堀越裕歩

図 4 KANSEN Journal の資料抜粋

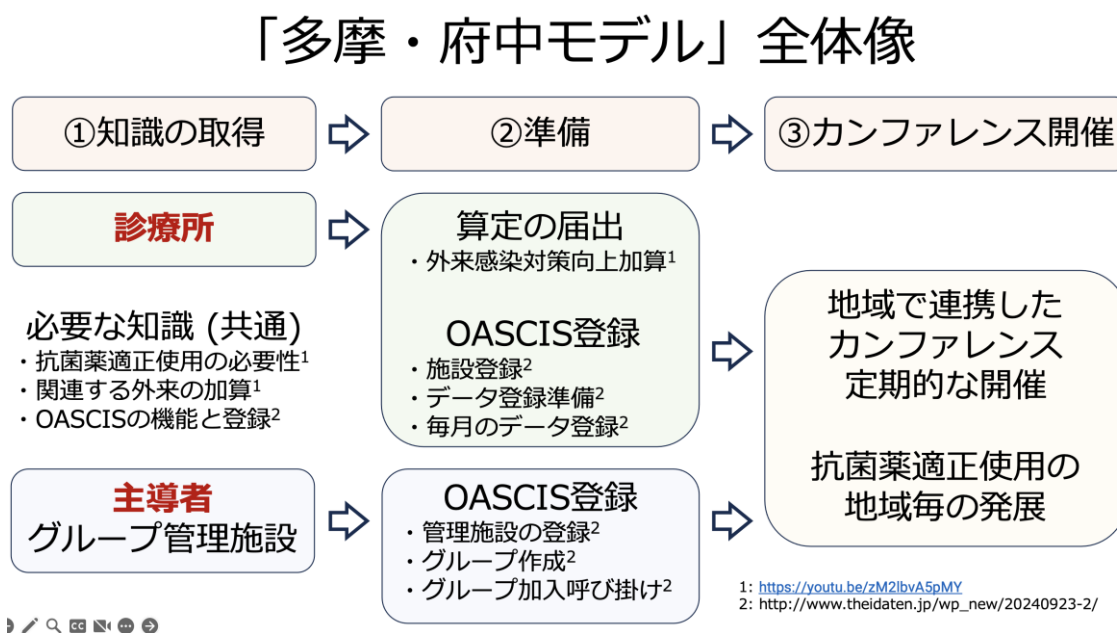


図 5 多摩・府中モデルの全体像の資料